

令和6（2024）年度第5回柏崎市地域公共交通活性化協議会

（書面協議）

議案

令和6年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫支出金）の事業評価について [P1～2]

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱第3条第5項の規定に基づき、本協議会で取り組む対象事業について、自ら事業評価を行い、北陸信越運輸支局にその結果を報告するに当たり、その自己評価内容（P1）についての承認を伺います。

※議案の自己評価のシート（P1）について、「④事業実施の適切性」及び「⑤目標・効果達成状況」は、A・B・Cの3段階で自己評価する。それぞれの評価内容は、以下のとおり

	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況
A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	事業が計画に位置付けられた目標を達成した（する見込み）
B	事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった	事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった（一部達成できない見込み）
C	事業が計画に位置付けられたとおりに実施されなかった	事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった（達成できない見込み）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 柏崎市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
越後交通(株)	東市街地循環線(ひまわり) ・比角先回り ・半田先回り	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	B 【市民1人あたりの利用回数】 目標:6.0回/年 実績:4.25回 【路線の収支率】 目標:32.0% 実績:32.7% 【利用者1人乗車当たりの市の財政負担額】 目標:212円/年 実績:220円 利用者の増加に伴い、収支率は目標に到達し、市の財政負担額も大幅に改善された。	今後も生活交通を確保していくため、柏崎市地域公共交通計画に基づき、効果的な利用促進事業を検討し展開する。また、現在策定中である柏崎市地域公共交通利便増進実施計画に基づき、高校生等の通学利用を促進するため、ダイヤの見直しを実施していく。
越後交通(株)	柏崎駅前～野田線 ・日吉町経由 ・石塚経由 ・医療センター経由	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 【市民1人あたりの利用回数】 目標:6.0回/年 実績:4.25回 【路線の収支率】 目標:32.0% 実績:14.6% 【利用者1人乗車当たりの市の財政負担額】 目標:212円/年 実績:532円 各目標を達成できなかった。各実績値は利用者の減少により悪化している。	今後も生活交通を確保していくため、柏崎市地域公共交通計画に基づき、効果的な利用促進事業を検討し展開する。また、現在策定中である柏崎市地域公共交通利便増進実施計画に基づき、利用実態に応じた運行の効率化・見直しを実施していく。
越後交通(株)	柏崎駅前～久米線	(1)路線バス高齢者割引制度を実施し、高齢者に対する利用促進を図った。 (2)高校生等通学割引キャンペーンを実施し、高校生の通学における路線バスの利用を促した。 (3)路線バス利用促進を図るため、ダイヤや路線図を掲載した公共交通ガイドブックを公共施設や各関係機関等に配布した。	A 事業は、計画に基づき、適切に実施した。	C 【市民1人あたりの利用回数】 目標:6.0回/年 実績:4.25回 【路線の収支率】 目標:32.0% 実績:5.14% 【利用者1人乗車当たりの市の財政負担額】 目標:212円/年 実績:1,263円 各目標を達成できなかった。各実績値は利用者の減少により悪化している。	今後も生活交通を確保していくため、柏崎市地域公共交通計画に基づき、効果的な利用促進事業を検討し展開する。また、現在策定中である柏崎市地域公共交通利便増進実施計画に基づき、利用実態に応じた運行の効率化・見直しを実施していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	柏崎市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市では、人口減少などにより路線バスの利用者が年々減少しており、それに伴う運行本数の減少が利便性の低下を招き、ますます利用者が減っていく「負のスパイラル」に陥っている。さらには運転士の高齢化や、地域公共交通に係る財政負担額の膨大化などにより、本市の地域公共交通の維持は大変困難な状況となっている。</p> <p>このような状況下でも、自動車を運転しない高齢者や高校生などにとって、地域公共交通は大切な移動手段であり、その方々の通院や買い物、通学などにおける生活の足は、これからも確保していかなければならない。</p> <p>誰もが安心・安全に移動できる地域公共交通ネットワークの構築を実現させるため、地域間幹線系統の主たるバス停である「柏崎駅前」と、郊外へ向かうフィーダー系統を接続させ、ネットワークの骨格を形成することが重要である。</p>